

♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.47

2021年6月21日発行
一般社団法人グリーンコープでんき



4月24日

自然エネルギーが生み出す収益を原資に 「豊浦みらい基金」設立

グリーンコープでんきは、山口県下関市豊浦町に地元の(株)C・GREENと市民エネルギーやまぐち(株)、環境エネルギー政策研究所と「豊浦太陽光発電所」をつくり共同事業を行っています。

発電所は、旧梅光女学院大学のグラウンドに建設し、2016年4月から稼働しています。この発電所は発電する施設ということを超えて、発電所をとおして地域の人たちとの関係を深める場となっています。当初は大学の校舎を活用して「まつり」などを行ってきました。今後も何らかの形で地域とともにできることを模索していくことにしています。あわせて、未来へつなげる地域への還元のお返しとして、「豊浦みらい基金」を設立し、その記念として、4月24日に記者会見、そしてシンポジウムを開催しました。

★記念シンポジウム★

【基調講演】

地域からエネルギーを軸に未来を創る

【講師】 金子勝さん

- ※日本経済は衰退の一途にあるのは危機管理能力が欠如しているからだ。
- ※危機管理能力の欠如は以下に表れている
 - ①不良債権 ②福島第一原発事故(東電がゾンのように生き残り、基幹産業衰退)③新型コロナウイルス大流行とその対策
- ※失敗の本質…異常化する日銀の金融緩和、財政規模の膨張がすごい、経済的困難増大(特に女性の失業は多い)、
- ※3つの悪循環…①無責任体制(⇒産業衰退) ②円安と賃下げ(⇒内需不足) ③財政金融政策拡大(出口のないネズミ講)
- ※脱却するには、地域から新しい経済・社会の仕組みをつくっていく。大きいもの強いものが支配するのではなく、皆がフラットに結びつく社会をめざそう!



- ※総敷地面積…約14000㎡
- ※定格出力……1073kW
- ※買取価格……36円/kWh(税抜)
- ※パネル数……4128枚

【リレートーク】

持続可能な地域づくりのために私たちができること
～合同会社各代表から「基金」に込めたメッセージ～

- ※子どもたちの未来につながる、子どもたち自身が考える夢を形にできるような基金にしていきたい。
- ※下関から第2のグレッタ・トゥンベリさん(スウェーデンの環境活動家)のような若者の登場につながる「基金」をめざしたい。
- ※家庭でエネルギーの話をするような環境ができること、若者たちが「豊浦」のような再エネの発電所をつくりたい、より大きなものを、という良い意味での競争につながっていくことを望む。
- ※官の厳しい基金ではなく、ささやかだけれどゆるやかで自由度の高い基金の活用を高めていきたい。



昨年末から2021年1月中旬までの 「電力需給ひっ迫と市場の卸電力取引価格の高騰」は、 なぜ起こったのでしょうか。

どんなことが起こったの？

厳冬の真ただ中、電力需給がひっ迫し、伴って電気料金が高騰するという異常事態が起こりました。それによって、日本卸電力取引所（JEPX）の市場価格が10倍以上になり、「市場連動型」の電気料金プランで電気小売事業を行っている新電力事業者に大きな影響を及ぼしました。グリーンコープでんきが出資している自然電力（株）や、ハチドリ電力など、電気を売れば売らざるほど赤字を抱える事態になり、新規契約をストップしたり、契約者への請求金額が膨らみ、その分を事業者が補填するなど、影響を受けた新電力が自力での対策を講じたようです。そうした中、最大手新電力のF-Powerが会社更生法適用を申請し破綻するという事態になり、事の深刻さが浮き彫りになりました。

こうした状況にグリーンコープでんきの契約者からは、「グリーンコープでんきは大丈夫なのか」「電気料金が高くなるのか」などの問い合わせがありました。

そうした事態はなぜ起こったのでしょうか？

2016年4月からの電力の小売全面自由化によって、2020年末で約700の新電力事業者が誕生しています。それらの事業者は電力をどうやって得ているのでしょうか？大枠3つのパターンとなっているようです。

①自前の発電所を持っている

②発電設備を持たないで市場から電気購入

③発電業者との相対契約をして電気を購入
市場から電力を購入する場合、その価格は一定ではなく、市場動向に合わせて30分ごとに価格が変動しています。

電力の自由化によって、全国の大電力10社による地域独占に終止符をうち、多くの新電力事業者の登場と、合わせて一般の消費者誰もが電気を自由に選ぶことができるようになりました。電力の自由化の目的の一つである、電力市場の競争力を促し電気を安く供給することが実現したということです。

自由化に合わせて、発電・送配電・小売のすべてを包括していた大電力会社において、まず2015年に発送電分離が行われました。しかし、それは完全な分離ではなく、法的なもので東京電力と中部電力が持株会社化、そのほかの電力会社は分社化されました。

そして、電力の自由化はされたものの、それに合わせて電力市場も改革されたのかというと、そうではないことがこの度の電力のひっ迫と価格高騰を引き起こしたのではないかという見方があります。

国（資源エネルギー庁）から「電力需給ひっ迫・市場価格高騰に係る検証中間とりまとめ（案）」が提起され、それに対するパブリックコメントの募集も行われました。

国のまとめは以下のようになっています。

★需給ひっ迫の要因として

① LNG（液化天然ガス・Liquefied Natural Gas）在庫減少によるLNG火力の稼働抑制

②水力利用率の低下、太陽光の発電量変動、それを補う火力への依存構造

★市場価格高騰の要因

①電力市場において、売り切れ状態が継続的に発生し、スパイラル的に買い入札価格が上昇

②大電力会社の売り惜しみ等の問題行為はなかった

本当にそうでしょうか？

内閣府の「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース」が、「電力価格高騰問題に対する緊急提言」を提起されており、その概要は、以下のとおりです。

●電力市場に不備があったのではないか（制度そのものの不備）。その不備は、電力自由化の後退につながりかねない。

⇒市場制度の再設計、市場の構造的問題への対処。つまり市場競争ができるような制度設計の再構築が必要であること、あわせて新電力への緊急支援などについての提言となっている。

●数年に一度の断続的な寒波到来で電力需給が大幅に増加したことで「電力需給ひっ迫」となっているが、寒さは2017年度と大差ないレベル。発電設備容量は足りていた。

●太陽光発電が「需給ひっ迫」の原因とまとめられているが、むしろ価格抑制に貢献している。

●LNG在庫減少が要因とされているが、なぜ不足したのか調達ができなかったのかは不明。日本では外国のようにLNG在庫に関する情報が開示されていないため、新電力が予測することは困難。

●真相は「売り入札量減」による高値ではないか、しかし、その要因は不明。

⇒市場の売り入札の大半は大手電力によるもの。発電所の8割を大手電力会社が寡占している状態。発電・小売が一体となっている構造的問題がある。

異常事態を超えて創造されるエネルギーの未来

今回電力市場で起こった事態は、電力自由化を成し遂げること、脱炭素社会を実現していくうえできちんと検証しておくことは重要です。エネルギー関係の専門家など様々な分野の人たちが検証されています。そうした声を反映させてほしいものです。

しかし、自然エネルギーへの不信や電力自由化の後退が懸念されているのも事実です。さらに、原子力の推進（既存原発の再稼働や新規原発の建設など）が一気に浮上してきていることにも注視する必要があります。

今後も電力がひっ迫するような事態が起こらないとも言い切れません。関連する情報を収集し、本誌に掲載していくことにします。

グリーンコープ電気は、「電力需給のひっ迫と市場価格の高騰」の影響を受けません。

グリーンコープでんきは、丸紅新電力のバランスグループに属しており、契約上、電力供給電源が特定されています（どこの発電所で発電した電気なのかわかる）。

これは、グリーンコープの商品が原料の産地や生産者などが特定されていることと同じで、「顔が見える電気」ということになります。

ただ商品と違うのは、欠品が許されないということです。電気は「30分同時同量」という原則があり、停電させないとなっているからです。そのために使用する電気の「需要と供給のバランス」を考えて電気を確保する必要があります。5月に発行された「共生の時代号外」で次のように案内しました。

Q. 電気の市場価格の急激な高騰が続いていますが、「グリーンコープでんき」の料金も上がるのですか？

A. 「グリーンコープでんき」は、市場価格の高騰によって電気料金が上がることはありません。

グリーンコープでんきは、「丸紅新電力株式会社」との特定卸売供給契約に基づき、水力、温泉熱、バイオマス（木質）、廃棄物（ごみ発電）、家庭用太陽光発電（卒FIT）等、特定した発電所の「原発フリー（原発の電気は使わない）」^{*1}「二酸化炭素排出量ゼロ」の電源を組合員に供給しています。市場価格に直接影響されることはなく安定供給ができるため、料金に変動はありません。

*なぜ市場では、電気料金の高騰が起きているのでしょうか？

九州電力や中国電力、関西電力などの「旧一般電気事業者」と呼ばれる大手電力会社は、発電した電気の一部を日本卸電力取引所に供給しています。日本卸電力取引所は、電力小売りの自由化を受けて、発電事業者や企業が電力取引を行う場として整備された市場です。多くの特定規模電気事業者（いわゆる新電力）は、そこから電気を購入し、消費者（需要家）に販売する仕組みになっています。通常は1kWhあたり7～8円程度だったところが、2020年12月末に高騰が始まり、2021年1月半ばには、一時250円を超える事態となりました。

このことに関して、認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也氏は、「^{*2}高騰が起きたのは、大手電力会社が卸電力取引市場を事実上独占しているからだ」と述べています。

*1 電気事業者別排出係数-R1年度実績-R3. 1. 7環境省・経済産業省公表
*2 飯田氏の講演内容を「グリーンコープでんき」ホームページにYouTube動画としてアップしています

■グリーンコープでんき

- 5月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	GC事業所 契約件数	組合員 契約件数	契約容量 (kW)
GC生協おおさか	8	57	275
GC生協ひょうご	9	33	173
GC生協とっとり	2	46	216
GC生協(島根)	1	97	413
GC生協おかやま	6	132	566
GC生協ひろしま	9	162	752
GCやまぐち生協	5	516	2,193
GC生協ふくおか	102	1,981	8,817
GC生協さが	17	113	682
GC生協(長崎)	11	214	1,074
GC生協くまもと	40	541	2,843
GC生協おおい	17	297	1,308
GC生協みやざき	2	144	538
GCかごしま生協	12	209	931
単協計	241	4,542	20,781
(一社)グリーンコープでんき(低圧)	53		382
(一社)グリーンコープでんき(高圧)	64		5,094
総合計	358	4,542	26,257

■5月の電源構成

【関西電力エリア】

- ・泉北環境整備施設組合 泉北クリーンセンター(燃料:一般ごみ)・・・95.3%
- ・家庭用太陽光発電・・・4.7%

【中国電力エリア】

- ・三峰川第一・第二発電所(水力)・・・91.3%
- ・家庭用太陽光発電・・・8.7%

【九州電力エリア】

- ・福岡都市圏南部清掃事業組合 福岡都市圏南部工場(燃料:一般ごみ)・・・55.6%
- ・三峰川第一・第二発電所(水力)・・・37.6%
- ・家庭用太陽光発電・・・5.3%
- ・馬洗瀬小水力発電所・・・0.4%
- ・杖立温泉熱バイナリー・・・1.1%

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。

「グリーンコープの託送料金訴訟」 第3回口頭弁論・報告集会のご案内

グリーンコープでんきは、国を相手に訴訟を起こしています。その第3回目の法廷が開かれます。

【日時】2021年7月5日(月)11時～

【場所】福岡地方裁判所 101号法廷

※コロナ禍で傍聴席は最大40名程度と制限されています。傍聴者多数の場合、先着順もしくは抽選となることがあります。予めご了承ください。

【報告集会】法廷終了後、弁護士会館で報告集会を開催します。ぜひご参加ください。

■市民発電所

一社)グリーンコープでんきの各発電所の2021年3月までの実績です。

- ・発電量は前年実績比104.7%でした。
- ・売電料は前年実績比100.0%でした。
- ・2月から出力制御が再開されています。
- ・5月は、神在発電所で8日、深年発電所で9日の出力制御が指示されました。
- ・また、運転停止時間も太陽光発電量の多くなる5月17日から6月末までの期間は、8時～16時から、8時～17時と1時間延長になっています。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	1,237,380	49,495,200
平池水上太陽光発電所	1,260	1,590,025	57,240,927
深年太陽光発電所	1,550	1,476,691	80,325,618
若宮物流センター	47	53,751	1,988,787
広島物流センター	47	52,354	1,937,098
やまぐち西部地域本部	54	54,202	2,118,567
グリーン未来ソーラー(10箇所)	244	456,074	9,577,554
合計	4,259	4,920,477	202,683,751

◆グリーン電力出資金

- ・皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億6,748万円になっています。
- ・出資目標額(積立目標額)は、5月26日現在11億981万7千円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	197	221	16,640,000
GC生協ひょうご	91	107	7,816,000
GC生協とっとり	130	142	10,710,000
GC生協(島根)	232	244	11,010,000
GC生協おかやま	146	162	13,380,000
GC生協ひろしま	667	800	82,537,000
GCやまぐち生協	558	646	41,460,000
GC生協ふくおか	5,289	6,167	523,810,000
GC生協さが	312	355	44,725,000
GC生協(長崎)	568	633	56,841,000
GC生協くまもと	1,452	1,661	123,564,000
GC生協おおい	765	854	69,108,000
GC生協みやざき	280	317	27,825,000
GCかごしま生協	706	814	80,391,000
合計	11,393	13,123	1,109,817,000

・グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。

・2021年5月末支出総額は8億4,881万円で、残高は1億1,867万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	967,481,500
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	118,671,279